

第2回宇治市水道事業経営審議会

- 1 専門部会からの報告
- 2 ビジョン・経営戦略の見直しについて

令和7年6月2日

宇治市上下水道部

目次

1. 専門部会からの報告(別紙参照)

2. ビジョン・経営戦略の見直しについて

(1) 前回の審議会での重要ポイント・・・P.2

(2) PDCAサイクルによる前半の取組評価・・・P.6

(3) 投資編・・・P.7

(4) 収支編・・・P.11

(1) 前回の審議会での重要ポイント【1】

1. 諮問事項

宇治市水道事業ビジョン・経営戦略の中間見直しについて

諮問の趣旨 水道施設の更新・耐震化を推進しながら、健全な経営を実現していくため、

将来にわたって持続可能な水道事業の運営のあり方について議論いただく。

2. 公営企業会計

(1) 独立採算制

受益者負担の考えから、原則として **必要な経費は水道料金で賄う** もの

(2) 会計は、収益的収支と資本的収支で構成

① 収益的収支は、日々の営業活動に必要な収支

→ 収支均衡を踏まえながら可能な限り黒字にすべき(利益は利益剰余金として内部留保)

② 資本的収支は、施設整備などに必要な投資の収支

→ 企業債と内部留保資金で支払い

前回の審議会での重要ポイント【2】

3. 宇治市水道事業の経営分析

経常収支比率および料金回収率

早急な改善が必要



◆経常収支比率 → 令和3年度以降、毎年収益的収支が赤字であり、利益剰余金は

10億3千万円(令和3年度末) → 1億6千万円(令和7年度末)まで減少

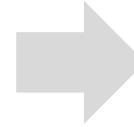
◆料金回収率 → 100%を下回る場合、給水にかかる費用が給水収益以外の収入で賄われて

いることを意味し、適切な料金収入の確保が求められる

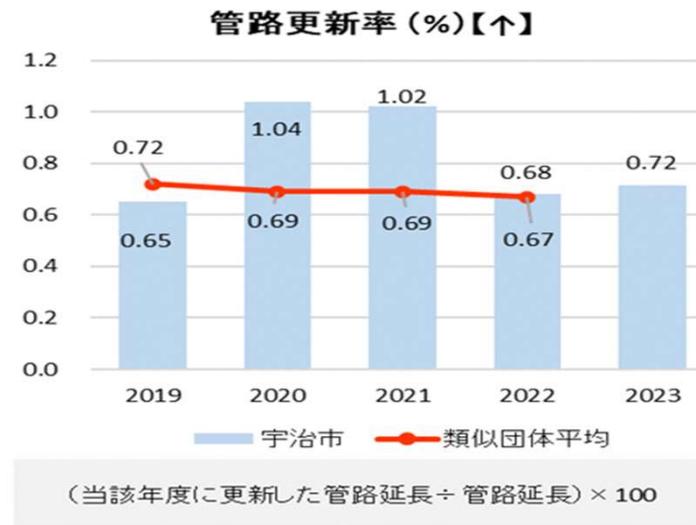
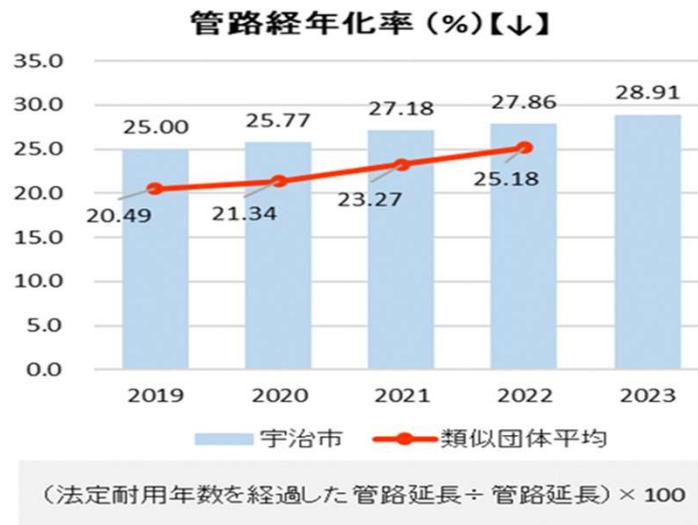
前回の審議会での重要ポイント【3】

4. 宇治市水道事業の投資分析

管路経年化率および管路更新率



管路更新のペース
アップが必要



◆ 管路経年化率 → 年々、耐用年数を超えた管路が増加

前回の審議会での重要ポイントまとめ

本市の水道事業の現状と課題

項目	現状と課題
経営環境	◆人口・水需要の減少により、料金収入は減少傾向 (今後も同様の見通し)
財政の状況	◆経常収支比率が100%未満(宇治市97.7% 全国平均108.3%) ◆料金回収率が100%未満 (宇治市83.5% 全国平均 98.7%) ◆企業債の残高が大きい (宇治市342.1%全国平均 262.0%) (※R5実績)
水道施設の状況	◆施設や管路の老朽化が進行 ◆災害に備えた耐震化が必要

(2) 前半の取組の評価

PDCAサイクル(計画の策定(Plan)・施策の実現(Do)・事業進捗の検証(Check)・改善策の検討(Action))の考えに基づき、事業の達成状況などを把握し、改善策を検討する。

指標項目	内容	目標値	実績	評価	
①水質管理	塩素残留濃度	毎日 0.4mg/L以上	0.5mg/L (R6実績)	適正	適正な数値で管理できている。
②浄水場	施設の耐震化	82% (R12末)	82.1% (R7見込)	達成	最重要施設として積極投資。
③配水池	施設の耐震化	87% (R12末)	53.1% (R7見込)	未達成	部品調達の遅れ等で3年程度計画より遅れている。
④管路	基幹管路の耐震化	31% (R12末)	32.0% (R7見込)	達成	計画路線に加え、道路改良工事に合わせて管路の耐震化を行うなどし、計画を上回るペースで実施。 しかしながら、老朽管は、更新を実施している以上のペースで法定耐用年数を超過した管路が増えている。
⑤財政状況	経常収支比率	100%以上	97.7% (R5実績)	改善必要	早急に歳入確保・歳出削減の見直しが必要 (R5全国平均108.3%)。
⑥水道料金	料金回収率	100%以上	83.5% (R5実績)	改善必要	国が求める100%とは乖離しており、見直しに向けた検討が必要(R5全国平均98.7%)。

(3) 投資編

前半5年間(見込)での耐震の状況

浄水場(水を作る)

進捗状況 ◆ 令和2年度末 74.4%⇒令和7年度末見込 **82.1%** (令和12年度到達目標82%)

全国平均 ◆ 43.4%(令和4年度末現在)

配水池(水を貯める)

進捗状況 ◆ 令和2年度末 38.3% ⇒令和7年度末見込 **53.1%** (令和12年度到達目標87%)

全国平均 ◆ 63.5%(令和4年度末現在)

基幹管路(幹となる管路)

進捗状況 ◆ 令和2年度末 25.2% ⇒令和7年度末見込 **32.0%** (令和12年度到達目標31%)

全国平均 ◆ 42.3%(令和4年度末現在)

◆早急に、災害時にも耐えうる施設整備が必要

投資編まとめ

各地での災害・管路破損の頻発化

- (1)能登半島地震では、浄水場や管路などの破損により、水道・下水道が長らく使用できず
- (2)八潮市での下水管破損、和歌山市での水管橋破損、先日起こった京都市下京区(国道1号線)での水道管の破損など、全国各地で老朽化した管路が破損



起こってからの対応では、被害が甚大なものに

地震など災害が頻発化、施設の老朽化が進む中、

老朽管の更新・耐震化のスピードアップが必要

(4) 収支編

収益的収支に影響を与える4大要素

1	水道使用量の減少	<ul style="list-style-type: none">◆ 給水人口の減少 (R3:181,960人 → R5:179,362人 約1.4%減少) ↓◆ 節水機器の普及
2	物価の上昇	<ul style="list-style-type: none">◆ 動力費、薬品代などの経費の上昇 (薬品費 R3: 11,466千円 → R5: 16,175千円 約1.41倍) ↑◆ 企業物価指数 (日本銀行(2025.2)企業物価指数) R2 → R6末比で 約1.25倍) ↑
3	減価償却費の上昇	<ul style="list-style-type: none">◆ 耐震化等の投資により減価償却費が上昇 (減価償却費 R3:875,734千円 → R5:967,791千円 約1.11倍) ↑
4	支払利息の利率上昇	<ul style="list-style-type: none">◆ 令和3年度の利率0.3% ⇒ 令和7年度の利率2.3% ⇒ 今後も上昇傾向 ↑◆ 今後借りる企業債の返済利息額が徐々に上昇

収支編まとめ

宇治市の財政状況

収入は年々減少傾向、その一方で支出は年々上昇 ⇒ 収支改善の見込みは厳しい

令和3年度から収益的収支の赤字が続いており、

利益剰余金は、10億3千万円(令和3年度末) → 1億6千万円(令和7年度末)まで減少

**歳入確保及び歳出削減の両面から、
早急に収支改善へ向けた取組が必要**